

東日本大震災の復興支援への取組み状況の報告

報告日：平成 23 年 5 月 31 日

支部・部会・実行委員会・登録グループ名 機械部会
責任者名 / 報告者名 盛山保雄 / 内藤重信
取組みの状況（検討状況、予定等含む）2,000 字以内 1. 機械部会の大震災取組み経緯 <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 3 月 17 日 第 1 回「防災会議」に出席</li> <li>・ 3 月 22 日 機械部会 震災対応プロジェクトチーム(略称：震災 Pj.)の立上げ提言 機械部会 HP にブログ立上げ提言 (3 月 31 日同左 ブログ立上げ)</li> <li>・ 3 月 25 日 同上テーマで「拡大幹事会」開催、震災 Pj.チーム発足；大和田・水谷・内藤</li> <li>・ 3 月 31 日 機械部会 HP に「当会の震災対応取組」及び「ブログ立上げ」；案内発信</li> <li>・ 4 月 18 日 / 5 月 2 日～5 月 8 日 関東圏在住の機械部門技術士に、震災対応に関する機械部会からの提言及び課題を求めるアンケートを実施(メール送信・回収)</li> <li>・ 5 月 10 日 第 1 回 震災 Pj.会合；アンケート結果と 5 / 13 例会呑む進め方</li> <li>・ 5 月 13 日 機械部会 5 月例会で、アンケート結果の報告と、これらをテーマにしたパネル討論会を開催。現在、集計と提言集を纏め中。</li> <li>・ 5 月 30 日 第 2 回 震災 Pj.会合；報告書のまとめ</li> </ul> 2. 報告 <p style="text-align: right;">22011.05.31</p> <p style="text-align: center;"><u>機械部会からの提言(被災後、3 ヶ月時点での提言)</u></p> 前提 地震、津波、放射能被爆 / 汚染の 3 つに限定する。(他の自然災害・人的災害は別途) 機械部門の専門分野及び専門分野ではカバーしきれない分野からの考察も行う。 <p>A. 被災地関連：添付資料「機械部会でのアンケート結果」をもとに現地調査を行い、アンケート各項を精査し、提言と課題をまとめ、近づく大震災への備えとしたい。 (アンケート結果からの提言と課題)</p> 1. 緊急対応；緊急対応を必要としたものに何があったかを調査し今後活かす処置を考えたい。 (組織化・マンパワー / 応援体制 / 仮設設備・機器の装備と使用時マニュアル・制度化等) <ol style="list-style-type: none"> <li>1) 想定及び想定外被災に対し、それに代わる仮設代替機器・システムの提言(インフラ・ライフライン然り)。</li> <li>2) 被災等のタイムリーで且つ欲しい情報が得られない 要 平常時からの情報網の整備と確保</li> <li>3) 発生した二次災害と対応・課題を上記 1) 2) 同様、纏めたい。</li> <li>4) 要 平常時からの防災体制 現有勢力・組織で何が出来るか / 出来たか 現体制の充足を。</li> </ol>

## 2. がれき処理

- 1) がれき処理ロボットの開発(掘起し 分別 搬送)
- 2) 解体等処理作業を行う搬送車の開発
- 3) 隣接地域間の最終処分を含むがれき / 焼却処理の応援 / 分担体制の確立

## 3. 原発施設被災(1. 緊急対応以外)

- 1) 省電力(ライフスタイルの転換を含む)対応と共にピーク電力の平準化
- 2) 代替 / 再生エネルギーの適用 / 採用加速
- 3) 蓄電池機能材料の開発加速を
- 4) 既存原発施設の見直し(原発廃止論に対する日本技術士会としての見解)

## 4. 復興

- 1) (平時からの)地域の繁栄を目指した復興 / 再生のビジョンと計画の構築
- 2) 被災者の目線に立ち、生活基盤回復を目指す
- 3) 官民一体となった復興専門組織の設立と参画
- 4) 一連の復興計画(緊急対応から復興計画・施工管理まで)に必要な人材の掌握 防災専門家登録等、人材データバンクの見直し / 更新を !

B. その他の地域での想定及び想定外災害関連 ; 上記 A 項を基に各地域(各支部)で震災に遭遇するとの想定で、それぞれの地域の特徴・現有勢力等を勘案し、同様な項目について考察する。

以 上